



資料1

令和7年7月22日  
第1回千葉県文化芸術推進懇談会

# 千葉県文化芸術推進基本計画の 令和6年度実績について

千葉県文化振興課



## はじめに

---

本計画は、文化芸術に関する施策の総合的な推進を図るため策定した計画(令和4～6年度)であり、その推進のため、基本指標及び施策の柱ごとの成果指標を設け、進捗管理を行うこととしています。

このたび、計画期間最終年度の令和6年度の進捗状況(主な取組と成果指標・実績)を取りまとめました。

## I 「千葉県文化芸術推進基本計画」の基本指標

目指す姿		あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会			
基本指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績		
			(4年度)	(5年度)	(6年度)
この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合※ (オンラインでの鑑賞を含む)	75.0%	71.8%	74.0%	76.7%	77.0%
この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした県民の割合※ (オンラインでの活動を含む) (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む)	50.0%	—	24.3%	28.0%	28.9%

※県政世論調査の結果による。

- 「鑑賞した」県民の割合は、目標の75%に対し77%となり、目標を達成する結果となった。
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行(R5.5)に伴い、イベント等が再開され、人々が外出するようになったことや、鑑賞環境の変化(新型コロナウイルス感染症の影響等による)により、オンライン等で気軽に鑑賞できる機会が定着してきたこと、千葉県誕生150周年記念事業をはじめとした様々な文化芸術に触れ親しむ機会の提供を行ったことなどから、実績が伸び、目標を達成することができた。
- 目標を達成してはいるが、本指標の実績調査である県政世論調査において「文化芸術を鑑賞しなかった理由」について聞いたところ、時間がない、興味のある内容の催し物がない、文化芸術の鑑賞に興味がない、近くに鑑賞できる文化施設がない、鑑賞に関する情報を得られないなどが挙げられていた。
- 「活動をした」県民の割合は、R5年度実績より0.9ポイント増加し28.9%となったが、目標の約6割だった。
- 県政世論調査において「文化芸術活動をしなかった理由」について聞いたところ、時間がないことや、興味のある内容の活動がない、文化芸術の活動に興味がない、活動に関する情報を得られないなどがあげられており、目標まで届かない理由と考えられる。

## I 「千葉県文化芸術推進基本計画」の基本指標

基本指標は、県政世論調査の結果ですが、一方で「県民への意識調査」において文化芸術を鑑賞しなかった方に普段の余暇時間に何を行っているか聞いたところ、テレビ、ゲーム、動画配信サービス、読書、音楽鑑賞など、文化芸術に関する鑑賞や活動内容を回答した方もいたことから、文化芸術の範囲を狭く捉えている人が多いと考えられる。

県としては、文化芸術は身近な日常の中にも存在しており、例えば映画やアニメ、漫画、ポピュラー音楽などを観たり聴いたりすることも文化芸術に触れることであり、地域の祭りで神輿を担ぐこと、SNS等で誰かに伝えたいという思いで写真や動画などを投稿すること等も文化芸術活動であると考えている。

→第2次計画ではこういった考え方を発信し、文化芸術の裾野を広げることや、誰もが楽しみながら自己表現できる環境づくりを行うことを基本施策や取組内容に取り入れた。これらや活動に関する情報の発信等についても引き続き取り組みを行う。

## II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

### 施策の柱1 あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり

～文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術活動を行い、鑑賞することができる環境を整備する～

#### 1 主な取組

##### 県の主な取組

###### ○千葉・県民文化祭（文化振興課）

県域で活動する文化芸術団体による日頃の文化活動の成果を発表する場の提供及び一般公募による文化芸術の発表の場を設けたほか、「ちば文化資産」を活用したアウトリーチコンサート等を実施した。

###### ○障害者芸術文化活動支援事業（文化振興課）

支援センターにおいて県全域でのワークショップの開催や、県立美術館での障害のある人の作品の展示会の開催を行ったほか、新たに本展示会での受賞作品の県内巡回展示等を実施した。展示会の出展作品数は前年度よりも120点程度増加し、障害者による文化芸術活動の振興に寄与した。

###### ○県立美術館・博物館事業（文化振興課）

博物館では千葉県の自然・歴史・文化を紹介する展示・体験を、美術館では千葉県ゆかりの作家・作品の展示を行うなど、各館の特色を生かした様々な事業を実施したことで、あらゆる人が文化に触れ親しむ機会を提供した。

###### ○さわやかちば県民プラザ事業（生涯学習課）

県民の自主的な文化活動の促進及び文化活動の機会の提供のため、音楽ワークショップ、高校生バンドフェスティバル等の事業を行った。

##### 市町村の主な取組

###### ○バリアフリー演劇鑑賞会（流山市）

障害のあるなしに関わらず、誰もが分け隔てなく演劇を鑑賞できる環境を整備した市内の高等学校演劇部が演じるバリアフリー演劇の鑑賞会を実施。障害のある方も観劇を楽しめるよう、より詳細な音声ガイドを作成。また、開演前に車いすの動かし方や目の見えない方へのサポート方法について、バリアフリー研修会を開催した。

###### ○未来につなぐ「夢フェス」（我孫子市）

市政施行55周年記念事業として多彩なジャンルで活動している方々に日頃の成果を発表する機会を提供し、活動の活性化を図った。また、ジャンルを限定せず幅広い年代の方楽しんでいただけるような舞台発表を実施するとともに我孫子市の魅力を発信した。

##### 文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組

###### ○いきいきフェスタTAKO文化祭

###### （多古町コミュニティプラザ文化ホール）

多古町文化協会加盟団体を中心に、町内各学校や個人による舞踊・ダンス発表等の「芸能発表大会」、合唱・吹奏楽発表等の「音楽会」、絵画・写真・手芸展示等を内容とする文化祭を開催。地域の人びとが文化芸術に親しむ環境づくりに貢献した。

###### ○美術収蔵品展（茂原市立美術館・郷土資料館）

令和6年度は計10回の美術収蔵品展を実地及びバーチャルで開催し、誰もが鑑賞できる機会を提供した。

## 施策の柱1 あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり

### 2 成果指標・実績

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績		
			(4年度)	(5年度)	(6年度)
県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、文化芸術を鑑賞した人数 (オンラインの視聴者数を含む)	増加を目指す ※	—	2,789,759 人	4,219,460 人	4,502,574 人
県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、文化芸術活動を行った人数 (発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等) (オンラインの活動を含む)	増加を目指す ※	—	496,153人	575,757人	578,009 人

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

※令和4年度から新規で設定した指標であるため、まず初年度の実績を調査し、その実績からの増加を目指すこととした。以降同じ。

- 文化芸術活動を「鑑賞した」「活動を行った」人の数は、令和5年度実績より増加し、目標を達成した。
- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、人々が外出するようになったことや、オンライン等で気軽に鑑賞・活動できる機会が定着してきたこと、千葉県誕生150周年記念事業をはじめとした様々な文化芸術に触れるイベント等が増加したことや、障害の有無や年齢等に関わらず鑑賞・活動する機会の提供を行ったことなど、身近に文化芸術に親しめる取組を実施したことで、鑑賞する人・活動する人が増えたものと考えられる。

→引き続き誰もが文化芸術を実践し鑑賞できるよう、機会の提供、理解の促進、人材の育成・支援を行うとともに、身近な日常の中にもスポットを当て、文化芸術の裾野を広げることで、誰もが文化芸術の鑑賞や自己表現を行いやすくするための基盤を整備していく。

## 施策の柱2 ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり

～県内各地で守られてきた伝統文化を地域で活用し、未来に継承する～

### 1 主な取組

#### 県の主な取組

##### ○伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業（文化振興課）

県内小中学校（27校）に対し、洋楽、伝統芸能(能楽・雅楽・三曲)のプロの演奏者を派遣し、鑑賞及び楽器体験を行った。

##### ○「ちば」の文化芸術発信事業（文化振興課）

伝統文化等の保存・継承に取り組むとともに、県民の文化芸術活動の発展につなげるため、本県の魅力的な文化芸術を発信するための舞台公演を県民が参加できる形で実施。狂言公演、0歳から参加できる邦楽コンサートなどを実施した。

##### ○県立美術館・博物館事業（文化振興課）

県立美術館・博物館において、各館の特色を生かした展示や体験事業等の様々な事業を年間を通じて実施した。参加体験型博物館「房総のむら」では、地域に伝わる文化への理解を深めるため、房総の伝統的な生活様式や技術の体験、四季折々のまつりや民俗芸能の上演等を実施している。（和ろうそく、竹細工、お飾り作り体験、さくらまつり）

##### ○千葉県無形民俗文化財連絡協議会（文化財課）

「令和6年度房総の郷土芸能」を長生村文化会館で開催した。山武・長生地域の7つの民俗文化財団体が出演した。また、富津市の県指定無形民俗文化財「吾妻神社の馬だし祭り」の記録映像作成を行った。

##### ○伝統的工芸品産業振興事業（観光政策課）

県内の伝統工芸品を4件（衣裳着人形、佐原太鼓、房州切子、手描襖絵）新規指定したほか、指定伝統工芸品展の開催等を行った。また、令和6年度からの新規取組として、伝統的工芸品の製作者向け講座（ブランディングに係ること、SNS映えする写真の撮影方法に係ること）を実施した。

#### 市町村の主な取組

##### ○郷土芸能振興大会（山武市）

緑豊かな自然や郷土の歴史の中で培われてきた獅子舞や祭礼の御囃子など伝統的な芸能への理解と認識を深めるための普及活動と将来に向けた保存・伝承活動の推進、地域文化の活性化に寄与することを目的とした大会を開催。

##### ○おんじゅく歴史教室（御宿町）

地域にゆかりのある民話・伝説・史実などを歴史背景を解説した後、朗読し、身近な地域の歴史文化に触れる機会を提供。市内で活動する芸術文化団体の披露の機会や、各種大会が開催され文化活動の振興につながった。

#### 文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組

##### ○成田の伝統芸能入門（成田国際文化会館）

地域の貴重な伝統芸能に市民が触れる機会を創出し、伝統芸能の保存と郷土愛を育むことを目的として実施。始めに伝統芸能おどり花見に関する講演を実施し、その後に実演披露した。

##### ○千葉の伝統的工芸品「<sup>まいわいぞめ</sup>萬祝染」を体験しよう

（千葉県立中央博物館）

千葉県指定の伝統的工芸品の鴨川萬祝染の鈴染を講師に迎え、職人と一緒に万祝製作行程の色差しの体験を行った。

##### ○伝統芸能・伝統技術の公開及び体験（浦安市郷土博物館）

千葉県・浦安市の指定文化財である浦安お洒落保存会・浦安囃子保存会・浦安細川流投網保存会の活動の公開・体験をとおし、市民が文化芸術に触れられる機会を提供した。

## 施策の柱2 ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり

### 2 成果指標・実績

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績		
			(4年度)	(5年度)	(6年度)
県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、 <b>伝統文化事業の鑑賞者数</b> (オンラインでの視聴を含む)	増加を目指す ※	—	414,913人	574,197人	579,369人
県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、 <b>伝統文化体験事業の参加者数</b> (オンラインでの体験行事を含む)	増加を目指す ※	—	43,045人	71,323人	73,972人

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

- 伝統文化事業の「鑑賞者数」「参加者数」は、令和5年度実績より増加し、目標を達成した。
- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、人々が外出するようになったことから県立文化会館や県立博物館などで来館者数がコロナ前の水準に回復してきていることや、伝統文化に関する取り組みなどを継続して実施してきたことにより取り組みの認知がされてきていることなどから増加したものである。

→引き続き、ちばの多様な伝統文化を知る機会を提供するとともに、伝統文化を取り巻く関係者等と連携し、地域の伝統文化の保存・継承・活用を図る。

### 施策の柱3 新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり

～観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等、他分野との連携により文化芸術が社会の様々な場面で輝く機会を創出する～

#### 1 主な取組

##### 県の主な取組

###### ○障害者芸術文化活動支援事業（文化振興課）再掲

詳細はP.3（施策の柱1）参照

###### ○ちばアクアラインマラソン開催事業（生涯スポーツ振興課）

6年ぶりにフルスペックで開催され、27万人の沿道応援のもと、約1万7千人のランナーが参加した。コース沿道では、吹奏楽や和太鼓、ダンスなどの応援パフォーマンスで大会を盛り上げるとともに、観戦者にはスポーツと文化芸術に触れる機会を創出した。

###### ○千葉県フィルムコミッション運営事業（観光政策課）

映像制作関係者へ広報活動業務を実施し、県内で86件の撮影が行われた。また、各市町村との連携やロケツーリズムの推進を図るため、新たに市町村担当者会議を開催した。

###### ○デュッセルドルフ市奨学生財団の受入れ（国際課）

デュッセルドルフ日本奨学財団及び独日文化交流育英会の奨学生等を受け入れ、成田山新勝寺や県立房総のむらで体験などを実施。日本並びに千葉県の文化や歴史について学ぶ機会を提供し文化による国際交流を行った。

###### ○県立学校開放講座（生涯学習課）

県立学校を開放し、生涯学習講座を実施した。

###### ○景観セミナー（公園緑地課）

良好な景観の形成に関する普及啓発及び知識の普及を図るため、県内各地で景観セミナーや研修会等を開催。

##### 市町村の主な取組

###### ○百年後芸術祭～環境と欲望～内房総アートフェス（市原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市）

内房5市が連携し、千葉県誕生150周年事業の一環として「広域連携」「官民協同」による初の試みとして、アート、クリエイティブ、テクノロジーの力を融合した、百年後の新しい未来を創っていくための持続可能なプラットフォームとしての芸術祭を開催。21万人超が来場した。

多様な地域資源を活用し、地域の魅力を発信した。また、市域を超えた新たな関係性が構築され、さらなる連携の可能性も示された。

###### ○東庄ふれあいまつり・東庄町文化祭（東庄町）

町のふれあいまつり（農業や商工業をはじめ市内の様々な職種団体が参加した祭り）と文化祭を同時開催。町文化協会の芸能部による舞台発表、教養部による作品展示を実施。また、小中学校の協力で吹奏楽部の演奏や少年書道展を実施。コロナ禍での規模縮小から脱却し、賑わいが見られた。

###### ○トライデント高校生受入事業（鎌ヶ谷市）

新型コロナウイルス感染症により数年間中止していたが、令和6年度から再開。姉妹都市ワカタネ（ニュージーランド）のトライデント高校から生徒を1週間程度受け入れ、日本の生活習慣や文化等を学ぶ機会を提供し、国際交流を行った。

## 施策の柱3 新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり

### 2 成果指標・実績

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績		
			(4年度)	(5年度)	(6年度)
観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合 (いずれもオンラインでの取組を含む)	70.0%	—	40.7%	42.6%	48.1%

- 観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合は、R5年度から5.5ポイント増加したが、目標の70%に達成しなかった。
- 千葉県誕生150周年記念事業の一環として県内市町村との広域連携や官民共同で行った取組「百年後芸術祭」(県内10市町が参加)を開催したことや、新型コロナウイルス感染症により数年間休止していた海外との交流事業を令和6年度から再開したことなどが増加した要因と考えられる。
- また、目標まで届かない理由としては、各市町村において事業を企画実施する職員やノウハウが不足していることや、予算の確保が難しいことが挙げられた。

→引き続き文化芸術のネットワークの構築に取り組むほか、地域の産業まつりで文化芸術を活用するなどの地域の好事例の共有や地域間の交流・連携を促進するなどの横展開に取り組み、観光等の様々な分野と連携した文化資源の活用と地域の活性化を図る。

## 施策の柱4 次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり

～新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が文化芸術に触れる機会を創出する～

### 1 主な取組

#### 県の主な取組

##### ○軽音楽振興事業（文化振興課）＜R6新規事業＞

県立文化会館及び県内文化会館で全国高等学校軽音楽コンテスト決勝千葉県大会、千葉県高等学校軽音楽新人コンテストを開催。両コンテストとも24バンドが参加し、若い世代にも音の響きの良いホールを体験してもらうとともに、軽音楽の普及振興を図ることができた。

##### ○千葉県少年少女オーケストラ育成事業（文化振興課）

千葉市民会館で定期演奏会を実施するとともに、サントリホールで東京公演を開催。また、定期演奏会の様子をテレビやラジオで放送するなど、次代を担う少年少女の音楽文化の向上とオーケストラ活動の普及を図った。

##### ○アーティスト・フォローアップ（モデル）事業（文化振興課）

先見性や斬新な発想を持つ若手アーティスト（第1期生）8名に対し、資金支援及び相談支援等を行った。また、令和7年3月に県立美術館で成果展を開催した。

さらに、第2期生の選定も行うなど、若手アーティストのキャリア形成を支援する体制を整えることができた。

##### ○高等学校文化連盟補助（学習指導課）

千葉県高等学校総合文化祭の開催及び全国高等学校総合文化祭への派遣等の補助を実施。参加者数は前年度より約3,400人増加し、生徒が文化芸術に触れる機会を創出した。

##### ○水産物消費・食育対策事業（水産課）

県内の高等学校の料理教室に講師を派遣し、本県の郷土料理である「なめろう」や「さんが焼き」の伝承に努めた。

#### 市町村の主な取組

##### ○習志野第九演奏会公開リハーサル（習志野市）

習志野第九演奏会のリハーサルに市内小中学生を招き、合唱団やオーケストラの生演奏を聴く機会を提供。音楽部を中心とした生徒及びその保護者の参加があった。

##### ○ほうしゅばな宝珠花小僧将棋まつり（野田市）

将棋文化の普及振興と野田市出身のプロ棋士誕生のきっかけづくりのため、小・中学生を対象とした将棋イベントを開催した。将棋の普及に寄与することができた。

##### ○よやま余山貝塚体験教室（銚子市）＜R6新規事業＞

余山貝塚の魅力を伝えるため、親子で参加できる「貝輪作り教室」「骨角器作り教室」を実施。夏休み期間中に実施したことで多くの方に参加いただき、地域の歴史や文化に触れる機会となった。

##### ○お寺で遊ぼう（虫送り）（九十九里町）

地域の子供達がお寺で講話を聴き、その後伝統文化事業である「虫送り」行事に参加。松明づくりや櫓への火付け体験などを行い、次代への文化継承に寄与した。

##### ○おもてなし交流プログラム2024（市原市）

「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」の作品展示期間と時期を合わせ、旧内田小学校で地元ゆかりの若手アーティストや文化芸術団体等によるワークショップやイベント等を日替わりで実施した。にぎわいや市民の活躍の場の創出に繋げることができ、アートによるまちづくりを掲げる市原市ならではの新しいイベントの形を提供することができた。

## 施策の柱4 次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり

### 2 成果指標・実績

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績		
			(4年度)	(5年度)	(6年度)
県及び市町村における、子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数(子ども・若者の人数に限る)(オンラインでの取組を含む)	増加を目指す※	—	86,260 人	108,677 人	121,358 人

※子ども・若者:0歳～おおむね30歳未満。施策によっては40歳未満までの者。(子供・若者育成支援推進大綱(内閣府)において定義)

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

- 子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数はR5年度実績より増加し、目標を達成した。
- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、人びとが外出するようになったことや、軽音楽振興事業などの子ども・若者向けの新規事業を実施したこと、また、事業の実施時期を子どもが参加しやすい夏休みや、百年後芸術祭の開催時期に合わせるなど、参加者が多く見込める時期に設定したことから増加したものと考えられる。

→引き続き次代を担う子どもや若者が文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、近年、様々なイベントが県内で開催されるようになり、県民が親しむ機会が身近になってきたことを踏まえ、こうした機会を活用しながら、新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者への取組を推進していく。

## 施策の柱5 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

～ちばの強みを生かした「ちば文化」のブランド化と、近年、文化芸術の新たな表現手段や発信・保存方法として発達してきたテクノロジーの導入や、伝統文化及び地域固有の文化と国内外とのコラボレーションなどにより、新たな「ちば文化」の創造を進める～

### 1 主な取組

#### 県の主な取組

##### ○千葉県誕生150周年記念事業（文化振興課）

本県ならではの多様な文化資源や魅力を発信するとともに、千葉のブランド価値の創出・向上や地域活性化につなげるため、広域での連携による記念事業や、県内大型商業施設等による新たな企業連携、本県の豊かな自然環境、東京の隣接性を活かした「百年後芸術祭」等、さまざまな新しい取組を実施した。また、フィナーレイベントとして県民の日中央行事を九十九里浜や勝浦市で開催した。

記念事業には計約230万人が参加し、経済波及効果は約171億円となった。

##### ○「ちば文化」創造・継承事業（文化振興課）〈R6新規事業〉

県内市町村の企画・実施する千葉ならではの豊かな自然環境・都市機能を取り入れた新たな文化活動や、民間企業・団体が「ちば文化資産」を活用する事業に対し補助金を交付した。

##### ○千葉の海の魅力発信事業（文化振興課）

千葉の海ブランドデザインを活用し「千葉の海魅力発信イベント」を県内外で実施。千葉の海・大使さかなクンを活用したトークショーや広報物資の配布等を実施した。

##### ○OGOGO房総デジタルポイントラリーキャンペーン事業（観光政策課）

スマートフォン等を使って「千葉ならではの魅力」に触れられる観光スポットや150周年記念イベントや「ちば文化資産」を対象スポットを巡るデジタルポイントラリーを実施。

#### 市町村の主な取組

##### ○春の牧ウマまつり～国史跡でまちおこし～（鎌ヶ谷市）

鎌ヶ谷市の貴重な地域資源である、「国史跡下総小金中野牧跡（捕込・野馬土手）」を多くの人に知ってもらい、まちの活性化につなげていくため、馬をキーワードとした「とっこめ桜まつり」や「とっこめ寄席」などの各種イベントを開催した。

##### ○千葉県誕生150周年記念事業 香取・アート・タイム（香取市）

重要伝統的建造物群保存地区を中心に香取市の地域性を活かし、市主催として初となるアートイベントを開催。「ちば文化資産」である「佐原三菱館」や「与倉屋大土蔵」をアート展の会場として活用した。作品の題材として佐原の歴史的な町並み、水郷の失われた風景や祭りを取り上げ、地域の魅力の発信・再発見につなげた。

##### ○博学連携事業（市原市）

歴史遺産の保存と活用を図るため、千葉大学デザイン文化計画研究室と連携し、三次元計測データを活用した「触れる展示」資料の制作とミュージアムグッズの開発を実施。3Dプリンターで出力した埴輪を企画展で展示し、ワークショップを開催したほか、ミュージアムグッズを制作・販売した。

## 施策の柱5 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

### 2 成果指標・実績

成果指標	目標 (6年度)	策定時 (3年度)	実績		
			(4年度)	(5年度)	(6年度)
文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合	50.0%	—	19.7%	22.1%	<b>21.2%</b>

※県政世論調査の結果による。

- 文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合はR5より0.9ポイント減少し、目標の50%まで届かなかった。
- 令和6年度に実施した「文化芸術への意識に関するアンケート調査」において、「文化芸術活動を行う際に課題と感じる点」について聞いたところ、「練習・制作のための場所が少ない・遠い」、「活動に必要な費用が高額」、「新規加入者が少ない」、「発表の場が少ない・遠い」等の回答があった。
- 併せて、本指標の実績調査である県政世論調査において「文化芸術活動をしなかった理由」について聞いたところ、「時間がない」ことや、「興味のある内容の活動がない」、「活動に関する情報を得られない」などが挙げられている。
- これらのことが環境が整っていないと思う理由と考えられる。

→県民が文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると感じられるよう、各事業の実施や、県内文化施設の機能充実を図るなどの取組を続けていくとともに、効果的な情報発信をしていく。

# 令和6年度の進捗状況(一覧)

項目	指標	目標 (6年度)	策定時 (3年 度)	実績		
				(4年度)	(5年度)	(6年度)
基本指 標 【目指す姿】	あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会					
	この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合 ※1	75.0%	71.8%	74.0%	76.7%	77.0%
	この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をしたことがある県民の割合 (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動 への参加を含む) ※1	50.0%	—	24.3%	28.0%	28.9%
施策の 柱1	あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり					
	県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、 文化芸術を鑑賞した人数 ※1	増加を 目指す ※2	—	2,789,759 人	4,219,460 人	4,502,574 人
	県の主催事業や、県内公立文化会館(自主事業に限る)、美術館・博物館において、 文化芸術活動を行った人数(発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等) ※1	増加を 目指す ※2	—	496,153 人	575,757 人	578,009 人
施策の 柱2	ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり					
	県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統 文化事業の鑑賞者数 ※1	増加を 目指す ※2	—	414,913 人	574,197 人	579,369 人
	県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統 文化体験事業の参加者数 ※1	増加を 目指す ※2	—	43,045人	71,323人	73,972 人
施策の 柱3	新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり					
	観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合	70.0%	—	40.7%	42.6%	48.1%
施策の 柱4	次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり					
	県及び市町村における、子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数 (子ども・若者の人数に限る) ※1	増加を 目指す ※2	—	86,260人	108,677 人	121,358 人
施策の 柱5	ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信					
	文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合	50.0%	—	19.7%	22.1%	21.2%

基本指標及び施策の柱5については、県政世論調査の結果による。

※1 オンライン含む。

※2 令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。